

2023年7月12日

各 位

会 社 名 ラクオリア創薬株式会社
代表者名 代表取締役 武内 博文
(コード番号：4579)
問合せ先 取締役 須藤 正樹
(TEL. 052-446-6100)

タミバロテンとがん治療薬併用投与の 日本における用途に関する特許査定のお知らせ

当社の子会社であるテムリック株式会社（東京都新宿区、代表取締役社長：武内 博文）が権利を有するタミバロテン（AM80）の用途に関して、当社が日本で出願しておりました特許（出願番号 特願2022-532558）は、これまで審査中でありましたが、このたび、特許査定^{*1}の連絡を受けましたのでお知らせいたします。

本発明は、合成レチノイドであるタミバロテンとがん治療薬の併用療法が有効ながん患者の選択方法、およびレチノイドとがん治療薬との併用医薬に関するものであり、2023年3月3日に当社ホームページでお知らせした「名古屋大学を代表機関とするタミバロテンの膵がん・尿路上皮がんに対する臨床研究・医師主導治験」とも関連しています。

膵がんなどに代表される抗がん剤治療抵抗性のがんでは、がん周辺の微小環境を形成する間質^{*2}中の主な構成要素であるがん関連線維芽細胞（CAF）^{*3}が抗がん剤の効果減弱に関与していることが注目されています。また、CAFにはがん促進性の細胞（がん細胞の味方）とがん抑制性の細胞（がん細胞の敵）の両者が存在し、がん抑制性CAFの特異的機能マーカーとしてMeflin（メフリン）^{*4}分子が同定されております。

本発明において、タミバロテンなどのレチノイドがメフリン遺伝子の発現を増強し、がん促進性CAF（がん細胞の味方）をがん抑制性CAF（がん細胞の敵）に変換させる作用を持つこと、および間質中にCAFの浸潤を伴う悪性腫瘍を有するがん患者においてレチノイドと従来のがん治療薬との併用投与によってがんの治療効果が増強されることが見出されました。本発明により、膵がんなどの抗がん剤治療抵抗性の悪性腫瘍を有するがん患者に効果の高いがん治療を提供することが期待されます。

今回の特許査定により、日本において、当社の知的財産権が強化されることとなりました。今後も知的財産のポートフォリオの強化・充実に努めてまいります。

なお、本特許査定による2023年12月期（2023年1月1日～2023年12月31日）の通期連結業績への影響はございませんが、当社は、本特許がタミバロテンの今後の開発等を通じて中長期的に当社グループの企業価値の向上に寄与するものと考えています。

以 上

<ご参考（用語説明）>

※1【特許査定】

各国特許庁の審査によって「特許権を与える価値がある出願発明である」と判断された場合に示される評価です。特許査定後に特許料を納付することによって、登録特許となり、該当する国において特許権が発生することになります。

※2【間質】

がん細胞を取り囲むがん細胞以外の領域のことです。

※3【がん関連線維芽細胞（cancer-associated fibroblast：CAF）】

がん間質を構成する線維芽細胞であり、がん細胞の悪性化（増殖、浸潤、転移）を促進するさまざまな因子の産生に関与することが報告されています。

※4【Meflin（メフリン）】

名古屋大学医学系研究科腫瘍病理学の榎本 篤教授らの研究チームが、未分化な間葉系幹細胞（骨、軟骨、脂肪組織などへの多分化能を有する細胞）および線維芽細胞の特異的マーカーとして同定したタンパク質です。